

「社協」は、みなさんの参加とささえあいで、地域福祉をすすめる福祉団体です。

ホームページアドレス
<http://www.yokosuka-shakyo.or.jp/shakyo/>



よこすか



平成27年

1月

No.142



編集・発行 季刊

社会福祉法人
横須賀市
社会福祉協議会
〒238-0041
横須賀市本町2-1
TEL. 046-824-3435
046-821-1301
FAX. 046-827-0264



2015年 スタート!

毎年6月に総合福祉会館で行われる横須賀の福祉イベント「やさしさ広がり」ふれあいフェスティバルは、今年20回目の開催が予定されています。

楽しみながら福祉について考えるきっかけになってほしいと願って開催してきた20年の間に、福祉の法整備が進んできた一方で、社会情勢や自然環境の面で、私たちの暮らしに大きく影響するできごとがたくさんありました。

新しい年も「よこすかの福祉をハッピーに」を合言葉に、一人でも多くの方が自分のことで参加し、支え合うまちをつくっていきましょう!

横須賀市社協
マスコットキャラクター
フッピー



(うみかぜ公園から浦賀方面を臨む)

赤い羽根
共同募金

10月1日▶12月31日

平成26年度 共同募金へのご協力ありがとうございました。



平成26年度も共同募金へのご支援、ご協力ありがとうございました。

皆さまからお寄せいただきました寄付金は、神奈川県共同募金会を通じて、横須賀市内をはじめとする県下の社会福祉施設、地域の助け合い活動、災害時のボランティア活動等のための財源として大切に活用させていただきます。

(募金結果は、平成27年4月号でご報告いたします)

街頭募金の様子



衣笠駅 みずほ銀行前



ウィング久里浜前



横須賀中央駅 スルガ銀行前

共同募金は、皆さまのたすけあいの気持ちに支えられています



『よこすか社協だより』は、みなさまからの賛助会費ならびに共同募金配分金を財源として発行しています。

～今、わたしたちができること～ 復興は現在進行形

平成23年から毎年運行してきた、被災地支援ボランティアバス「フッピー号」の目的は、作業による支援だけでなく、被災した地域の「今の暮らし」を肌で感じること、横須賀に戻ったとき自分ができることについて、一人ひとりが考えることです。

昨年9月に運行した第3便に参加したお一人に、現地の方々からのお話をとおして、横須賀へ持ち帰ってきたことについて教えていただきました。

東日本大震災「被災地・語り部たちの思い」

釜石市&南三陸町を訪ねて

追浜地区社会福祉協議会 櫻井 一宏

●そっと寄り添う「フッピー号」最終便

東日本大震災から4年がたとうとしている。この間、市社協と横須賀災害ボランティアネットワークでは、「フッピー号」と称するボランティアバスを都合18回被災地に派遣し、延べ約740人のボランティアが参加した。今年度の最終便(平成26年9月のサロン便)は、2泊3日で岩手県釜石市と宮城県南三陸町を訪問。今回のサロン便は、釜石市のコミュニティ施設を会場として、餅つき、傾聴、絵手紙、おもちゃ遊びなどで被災地の方々と交流し、元気になってもらうことが目的。

当日、傾聴ボランティアの会場には、数時間のうちに70人もの方が立ち寄った。寂しい気持ちや、生活に不安を抱えている人がいかに多いかを実感した。また、60kgをついた餅は来場者のみならず、近くの天神町仮設団地139戸(多少空家あり)に配って歩いた。

●遅れる復興住宅と「ヨコスカ」への感謝

仮設団地には、小規模ながら商店街も併設されていて、小売店を営んでいる丸木宏之さんから現況について話を聞くことができた。それによると、「仮設住宅は3年をメドに建てられている。すでにその3年が過ぎたが、資材の高騰、人手不足等により災害公営住宅(復興住宅)の完成が大幅に遅れている。そのためすでに仮設の老朽化が始まり、土台など木材部分の腐食が進み修復を余儀なくされている。湿気によるカビ対策も大変」だが、「幸いなことは、生活支援員が毎日見守り訪問をしてくれるので、二次災害の孤独死はゼロです」という。

次の訪問地南三陸町では、宿泊した民宿の主人・高橋才二郎さんの話を聞いた。「日ごろから地域のことは地域で守る心がけが、被害を最小限に食い止め、またそれが早期復興にもつながるのだ」と、体験談を力説。さらにこんなエピソードも。「この民宿は、高台にあるため津波の被害から免れたが、ここに避難していた住民は1週間以上も風呂に入れないでいた。そのとき横須賀の海上自衛隊が来て、約80人もの人を船の風呂に入れてくれた。そのあ



最大4畳半2間2DKの仮設団地(平成26年9月27日岩手県釜石市)

りがたさが忘れられず、『ヨコスカ』と聞くだけで頭が下がる」と、私たちも大変温かく迎えられた。

●過去の体験を未来へ活かす「語り部」の思い

南三陸町といえば、防災対策庁舎の悲劇は象徴的である。防災無線で最後まで住民に避難を呼びかけ続けて命を落とした遠藤未希さん始め町職員の話は、殉職というにはあまりにも悲しい真実だ。鉄骨だけになった庁舎はいま、2体の石仏地蔵に守られて、物言わぬ語り部としてたたずんでいる。今後モニュメントとして残すか否かは、賛否両論があり決まっていない(9月28日



被害の大きさを物語る防災対策庁舎(平成26年9月28日宮城県南三陸町)

現在)。これは被災者の感情を最優先に尊重して決めるべき問題であろう。

いま南三陸町に限らず被災地では、未曾有の災害実態を正しく伝える語り部ボランティア活動が活発だ。私たちも、元消防署職員だったという語り部・菅原文雄さんの同行により、1時間余り南三陸町の状況を語ってもらった。実際の災害現場に立って当時の模様を聞くと、自然の力の怖さを改めて思い知らされる。菅原さんは、「自然に対する畏敬(いけい)の念を忘れないこと、そして災害を予知したらまず第一に逃げること」だと、繰り返し強調していた。一度避難した後で、家族の安否を心配して戻ったために、本人は命を失い、家族は別のところに避難していて無事だった、という残念な事例は数えきれないほどあったからだという。

そうだ、古来日本人は自然を神として敬い、恐れをなし、その平穩であることをひたすら祈った。それが日本の祭りの起こりである。現代の科学をもってしても、自然災害には抗するすべがない。人間が多少でも抵抗することができることといえば、過去の体験を生かして、いかに減災に結び付けていくかの知恵であろう。そのために、この大震災は後世に語り継がなければならないというのが、地元の語り部たちの思いである。同時に被災地を見聞した私たちも、自分の地域に戻って同じ意味で、この真実を自衛の糧とするために語り継ぐ義務を感じた。

ボランティアバス「フッピー号」によるボランティアは、今回が最後かも知れない。これからは、現地の要望を聞きながら、いままでは形を変えた支援活動が求められるであろう。

地域の中では、高齢者や乳幼児のほか、病気・障害などのため、周囲の配慮が必要な方々も暮らしており、特に避難をとまなう緊急時は、隣近所の協力に頼るところが大きいです。

このたび、東日本大震災で経験したこと、避難所でみんなに協力してほしいことなどについて、障害のある方や日ごろから支援する方々とともに考え、深める機会がありました。

「震災・原発事故被災 語り部による講演」 神奈川県録音奉仕団(会)連絡協議会 平成26年度研修会

昨年10月24日(金)かながわ県民活動サポートセンターで、**視覚障害者の矢島秀子さん**から、東日本大震災の避難生活について聞きました。

矢島さんは、南相馬市小高区の出身です。ここは、原発20キロ圏内のため、現在も避難生活が続いています。

この日の前日、避難先の南相馬市鹿島区の仮設団地からガイドヘルパーに付き添われ横浜まで来ました。

南相馬市は、つい最近ガイドヘルパーの仕組みが整い、今回の講演が県外に出た第1号になりました。

●その日

平成23年3月11日の地震発生時、地震の揺れは激しかったのですが、近所で被害があったとは聞きませんでした。近所の人と、着の身着のまま、近くの集会所に一旦避難しました。このとき、津波の情報はありませんでした。

しばらくして、警報が聞こえました。「警報が鳴ったから山に逃げる」と声を掛けてくれた知人に連れられて、さらに近くの山へ逃げました。

海に近いところから避難してきた人から、津波被害の様子を聞きました。「海のほうは、大変なことになっている」「家ごと流されてしまっている」

最初に津波が引いたときに家に戻った人が亡くなられたと、後から聞きました。

●避難生活

日ごろから、近所の方とお付き合いがあったので、誘導してもらうことができ、避難がスムーズにできました。その日のうちに、応急一時避難所にも移動することができました。ところが、避難所では、まわりの様子が分からず、歩き回ることもできずに、特にトイレには困りました。視覚障害者は、見て判断することができません。すべて耳からの情報になります。介助なしでは、何もできませんでした。

障害者が避難所で生活することの難しさを感じ、親戚、知人を頼って三重県など県をまたがり多くの方のお世話になりながら、避難生活をしてきました。

今は、南相馬市内の仮設住宅で暮らしています。

●今も続く避難生活

この震災により福島県内で亡くなった方が1,603人います。この中で障害者が110人、さらに視覚障害者は11人でした。(福島県の視覚障害者数27,000人)

現在も、福島県内の他地域への避難者76,906人、県外への避難者46,416人、合計で123,322人の方の避難生活が続いています。

体験型!!要援護者 避難所 受け入れ訓練 —障害がある人を災害弱者にしないために—

災害が起こったとき、より多くの方々の協力が必要な障害者などへの支援について考える訓練が、昨年9月7日(日)に総合福祉会館で開催されました。

これは、市障害者施策検討連絡会が、訓練を通して支援する側と障害当事者の、日ごろからの関係づくりもできるよう広く呼び掛けて開催したもので、当日は約200人が参加しました。

東日本大震災後、さまざまな住民が生活する避難所で、障害者との意思疎通の難しさが改めて取り上げられました。そこで訓練では、学校の体育館などの一次避難所で、支援を必要とする人(要援護者)の、受け入れをするときに役に立つ対応方法について実演しました。肢体や聴覚の不自由な方が要援護者の本人役となって目印のゼッケンを付け、けが人役には赤いテープを貼るなど、大勢の中でも支援の必要な人が分かりやすくなるよう工夫していました。

避難所には、緊急な支援を必要とする人が避難してきます

(例えば)

- 腎臓病で、人工透析ができる病院にすぐに搬送の必要がある人
- オストメイト(人工肛門)の方で、トイレの利用に特別の配慮が必要な人
- 大人でおむつ交換の必要な人
- 自力で移動できない人 等

「要援護者避難所受け入れ訓練」より

要援護者避難所受け入れ訓練は、実験的なものでしたが、町内の防災訓練などに障害のある方をはじめ、支援の必要な方や支援者も積極的に参加して、どのような手伝いがあると助かるか、みんなて話し合っておくことが大切です。

そして、日ごろから近所の人と「あいさつ」「声かけ」などの交流が、災害時の助け合いに大きな力を発揮します。

シリーズ 成年後見

第12回

よこすか市民後見人
活躍中! その①

これまで成年後見制度の内容や、横須賀での取り組みについてご紹介してきました。
今回は、現在市内で活躍している「よこすか市民後見人」の実践報告です。

毎月の活動内容

私が担当している事案のご本人(被後見人さん)は施設に入所中で、言葉での意思疎通が困難な寝たきりの方です。訪問時には衣服に不足がないか、室温などが適切に管理されているか確認しています。ほぼ月一回の割合で訪問しています。入院された場合は、必要に応じ毎週訪問するなど回数を増やします。

他の市民後見人さんの活動内容を聞くと、被後見人さんが施設入所中か在宅か、生活形態によっても訪問頻度は異なっているようです。

接するときの注意点

言葉での意思疎通が困難といっても、被後見人さんは周囲の話をきちんと聞いていますので、「この方は理解していない」というような言葉は慎むべきと思っています。眼や手の動き、場合によってはうめき声で反応を返してきます。私はいつもそれを何とか理解しようと努めています。言葉が通じなくても相手は感じています。私は相手の発信をとらえ、誠実に向き合うようにしています。

工夫している点

面会中は自分の伝えることと相手の反応を見ることに集中するので、被服や室温確認をした内容を書き漏らしそうになることもあります。それを防ぐため、整理棚の中や温度計の写真を撮影することをご本人に伝えて、ご本人を写さないようにプライバシーに十分配慮のうえ、デジタルカメラでの記録を補助的に利用することがあります。面会時に相手の様子を見ることに集中できると同時に、後で訪問内容を整理し確認するときに、画像から気づくこともあります。

専門職(弁護士・司法書士)との関係

共同で後見をしている専門職との関係は、事案ごとに様々な活動形態があります。私の事案では、司法書士が財産の把握と収支を管理し、私がご本人訪問時に身の状況把握して、健康状態についての報告や、ご本人の為の費用支出等があった場合はそのことを司法書士に伝えます。連絡頻度など工夫の余地もありますが、順調に活動ができています。

被後見人が入所する施設との関係

訪問を始めた頃は、市民後見人の役割があまり知られていなかったのですが、最近では認識してもらえるようになり、被後見人さんの日常などについて、情報交換が円滑に進むようになりました。



■市社協 あんしんセンター(TEL (821)3605)では、成年後見制度の説明・相談等をおこなっています。

※下記の団体でも、相談等をおこなっています。

◆横浜弁護士会 みまもりダイヤル TEL 045(211)7720 ◆かなさぼ(行政書士) TEL 045(222)8628
〈月～金:15時～17時、水:10時～12時〉 〈月～金:13時～16時〉
◆リーガルサポート(司法書士) TEL 045(663)9180 ◆ばあとなあ(社会福祉士) TEL 045(314)5500
〈月・金:15時～17時、水:10時～12時〉 〈火・木・土:14時～17時〉

※お住まいの地区の「地域包括支援センター」でも成年後見制度の相談ができます。

★団体(5団体)
ハンド・ニットの会、神奈川県行政書士会横須賀・三浦支部(株)陽報、三浦半島ガス協同組合、(有)川口包装

★個人(26人)
吉村久子、永嶋多亀江、倉科睦子、三留智明、平野昭弘、平野徳子、二見道乃、長嶋利夫、金井利有子、一柳八重、泉田桂子、山口きくえ、鈴木昭利、小泉かよ子、佐々木武夫、福本洋子、青木秀介、渡辺俊雄、廣部米子、栗原美智子、山川トミ、飯田洋介、榎原教幸、榎原美智代、榎原愛子、秋本トヨ子

平成26年9月1日～11月30日
〈順不同・敬称略〉

お名前とご住所を、電話・はがき・FAX・Eメール等でお伝えください。かながわ信用金庫(旧三浦藤沢信用金庫)と湘南信用金庫の振込用紙を送付させていただきます。(両信用金庫のご協力により振込手数料が無料になります)

★個人会員 ー 1,000円

★団体会員 ー 5,000円

*会費は年度会費(4月～3月)となっており口

数は何口でも結購です。

〒238-0041 本町2-1 総合福祉会館2階

横須賀市社会福祉協議会 総務課

TEL (821)1301

FAX (827)0264

E-mail shakyo@wg7.so-net.ne.jp

☆加入方法☆

賛助会員のご紹介



賛助で参上!

社協活動応援団



羽ばたく翼、ともに築く未来

かながわ信用金庫

年金のお受け取りは「かながわ信用金庫」へ

市社協・役員体制

平成26年12月1日で、任期満了による役員の改選があり、次の方が就任しました。

(任期 平成20年11月30日～平成26年11月30日)

〈順不動・敬称略〉

会長 永妻 和子
副会長 鈴木 立也
監事 鶴田健次郎 学識経験者
監事 櫻井 一宏 追浜地区社会福祉協議会監事
顧問 阿部 志郎 社会福祉法人
顧問 藤原 耐夫 学識経験者
顧問 藤原 耐夫 学識経験者

理事(定数十七名)

宮田 丈乃 長井婦人会保育園園長
森 弘樹 ヒューマン施設長
今野 幸子 衣笠第二地区
民生委員児童委員協議会会長
田中 靖子 久里浜第一地区
民生委員児童委員協議会会長
堀越 進 横須賀保護司会会長
大武 勲 横須賀市障害者団体連絡協議会会長
佐藤 昌久 横須賀市ボランティア連絡協議会会長
鈴木 立也 大津地区社会福祉協議会会長
長塚 武士 大楠地区社会福祉協議会会長
渡辺 光一 横須賀市議会教育福祉常任委員会委員長
星野 雅一 横須賀市福祉部長
菊池 匡文 横須賀商工会議所専務理事
西原 徹 横須賀市連合町内会会長
澄川 貞介 横須賀市連合町内会副会長
永妻 和子 学識経験者

評議員(定数三十五名)

太田 貞司 神奈川県立保健福祉大学名誉教授
濱田 千入 横須賀市社会福祉協議会事務局
高木 睦子 長岡保育園園長
小林勇次郎 太田和保育園園長
五十嵐直子 恵徳苑施設長
柳井 芳明 衣笠病院法人事務局長
浅葉 統太 横須賀椿園施設長
小谷 誠 フロムワン福祉園施設長
山口 忠夫 下町地区民生委員児童委員協議会会長
吉岡 和代 上町第一地区民生委員児童委員協議会会長
佐野美智子 上町第二地区民生委員児童委員協議会会長
鮎澤 昭代 久里浜第二地区
民生委員児童委員協議会会長
小林 英樹 武山地区民生委員児童委員協議会会長
白井 幸江 長井地区民生委員児童委員協議会会長
長島 良夫 横須賀保護司会副会長
二宮 幸三 横須賀保護司会副会長
津野田美代子 横須賀保護司会理事(会計)
浅羽 昭子 横須賀市障害者団体連絡協議会副会長
渡邊由真子 コミュニティセンター・フレンズ所長
明珍 スイ 横須賀市ボランティア連絡協議会副会長
平田 善也 上町第二地区社会福祉協議会会長
牧野 勲 浦賀地区社会福祉協議会会長
中嶋 泰 久里浜地区社会福祉協議会会長
田中 正延 武山地区社会福祉協議会会長
嘉山 淳平 横須賀市議会教育福祉常任委員会副委員長
福本 眞和 横須賀市財政部長
石井 孝広 横須賀市福祉部福祉総務課長
小田部英仁 横須賀市教育委員会事務局学校教育部長
佐々木秀弘 横須賀市医師会副会長
佐久間博一 横須賀市歯科医師会会長
高橋 達也 横須賀市薬剤師会会長

清水 健一 日本ボーイスカウト神奈川連盟

横須賀地区協議会地区委員長

高須 和男 横須賀市連合町内会幹事

安部 春男 横須賀市連合町内会幹事

原 忠 横須賀市連合町内会幹事

大倉 國光 学識経験者

嘉山 征勝 学識経験者



社会福祉法人

横須賀市社会福祉協議会

会長 永妻 和子

横須賀市社会福祉協議会は、誰もが住み慣れたまちで安心して暮らせるよう、十八地区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、福祉、医療、教育など関連する多くの機関と連携し、地域福祉の充実に取り組んでまいりました。

国の介護保険制度をはじめとする福祉施策の大きな変革期を迎え、一方で、社会的孤立などを背景とした福祉・生活課題が複雑化・多様化し、既存の制度やサービスでは対応することが難しい狭間の問題が顕在化しています。

人口の減少、少子高齢化など、社会の急速な変化を踏まえ、改めて、本市の実態に相応しい今後の地域福祉のあり方を検討することは、社会福祉協議会の喫緊の課題であり、責務であると認識しております。

新役員の皆様と力をあわせて、「わたしがつくる みんなでつくる」一人ひとりが住みやすいまち「横須賀」の実現を目指し、全力で取り組んでまいります。

皆様のご理解ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

最良の結果を導き出す良きパートナーでありたい。



AD.MIND Co., Ltd.
Design Production Company

当社は、ワンストップ・トータルデザインサービス企業として設立いたしました。お客様のニーズに最大限お応えするためにお客様との厚みのあるコミュニケーションを最重要と考え、プロセスひとつひとつに“想い=マインド”を込めています。

企画 デザイン(Graphic・Web) 撮影
eBook 3DCG Movie 印刷

〒239-0807 横須賀市根岸町3-14-25 グレイス5/1F
TEL.046-838-0555(代) FAX.046-834-3331

株式会社 アド・マインド

E-mail: contact@admind.jp

URL: http://admind.jp



もっと福祉のしごとを 知ってもらい隊が行く!

〈第1回：かながわ福祉人材センター〉



みんなのふだんのくらしのしあわせを支援する「福祉のしごと」は、施設や病院等で利用者を直接支援するものから、ひとり暮らし高齢者、障害者、子育て世帯など、地域で暮らす人たちを陰日向になって支え、寄り添うものまで多岐にわたります。

そこで、多くの方に「福祉のしごと」を身近に感じてもらうため、「福祉のしごと」をシリーズで紹介していきます。

現在、福祉分野の人材不足が深刻な課題になっています。高齢者が最も多くなる平成37年(2025年)に向けて、より多くの介護人材が必要となります。また、待機児童問題に代表されるように、十分な保育サービスを提供するために、保育人材を確保することも求められています。

神奈川県社会福祉協議会が運営する「かながわ福祉人材センター」(以下、「福祉人材センター」)は、「福祉のしごと」をわかりやすく伝えながら、福祉の現場で働きたい人と、人材を求める側をつなぐことが主な仕事です。

●福祉分野への就労相談

福祉人材センターの相談員は、県内の様々な施設・事業所から得た情報も活用して、福祉分野で働くことを希望する一人ひとりの状況や希望に合わせて、個別相談を行っています。



就労相談

●ミニセミナー、懇談会などの開催

「福祉のしごと」の基礎的知識等をテーマにした「福祉の仕事ミニセミナー」、第一線で活躍する施設職員から話を聞く「福祉の仕事を知る懇談会」、施設・事業所の協力を得て行う「職場体験」、さらに合同就職相談会である「福祉のしごとフェア」なども実施しています。



職場体験

●高校生向けの取り組み

若い年齢から「福祉のしごと」を知り、進学や職業の選択につなげてもらうため、平成25年度から県立高校生を対象とした「高校生出張介護事業」にも取り組んでいます。福祉施設等で働く若手職員の話を聞いた生徒たちからは、「介護の仕事は大変なイメージしかなかったけれど、楽しいこともたくさんあることがわかった」「福祉の仕事は高齢者介護という印象だったが、児童や障害者の生活も支えていることも学べて良かった」「実際の話を詳しく聞いて良かった。福祉の仕事もいになって思った」などの感想が寄せられています。

福祉人材センターの担当者は、『「福祉のしごと」が就労先の一つとして選ばれるためには、やりがいを持つことができ、魅力ある仕事だということを発信していく必要があります。これからも、様々な機会を活用しながら「福祉分野で働きたい」という人を増やしていくことに努めたい』と話します。

(福) 神奈川県社会福祉協議会 かながわ福祉人材センター

横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2
かながわ県民センター13階
TEL 045(312)4816

市社協でも、毎年夏に高校生福祉体験学習(はまゆうキャンプ)やふれあいキャンプに取り組み、参加した高校生や大学生が福祉分野に興味関心を持ち、卒業後の進路として「福祉のしごと」を選び活躍しています。“みんなの力で横須賀の福祉をハッピーにしたい”市社協も一緒に歩み続けます!

一日無料体験授業開催中!!

イトマンの授業を一度体験してみませんか。

●対象/全クラス

初めてイトマンの授業を受けられる方
※水泳に不適格な疾患のない方

電話予約制・お一人様1回限り

定員に限りがございます。お申し込みはお早めに!



正会員入会特典

1日無料体験授業受検後
正会員になられた方は

入会金
0円!



幼児・ジュニア
クラス

水着+
スクールバック

ベビークラス

ヘルパー+
スイミングキャップ

大人クラス

ゴーグル+
スイミングキャップ



イトマンスイミングスクール横須賀校

横須賀市日の出町3-11

☎046-823-6170

イトマンスイミングスクール

検索

webでは24時間受付しております。



ボランティアセンターを彩る四季
／「よこすかのき」
＊登録ボランティア
・布おもちゃグループ「ポケット」
が製作したクマベスター
(1500X2005)



よこすかボランティアセンター

場 所 〒238-0041 横須賀市本町2-1 総合福祉会館4階
開 所 月曜日～金曜日 8時30分～17時15分(土・日曜日と祝日は休み)
電 話 (821) 1303 (825) 0017 / FAX (824) 8110
E-mail shakyo-v@abox22.so-net.ne.jp
ホームページアドレス <http://www.yokosuka-shakyo.or.jp/vc/>
※ボランティア等の申込み・問合せ先を明記していないものは、よこすかボランティアセンターが窓口です。

災害時に備えて 学校体育館で宿泊体験 ～寒さを体感～

in夏島小学校

震災時に、自宅が倒壊するなど住居を失った人の避難生活の場は、「震災時避難所」となります。震災時避難所に指定されている学校の体育館で、夜を明かす体験をとおして避難所での生活について考えます。



日 時: 1月17日(土)17時～18日(日)7時
集 合 場 所: 夏島小学校体育館
定 員: 80人(抽選)
対 象: 防災や災害活動に関心があり、健康上、体育館での宿泊に問題のない小学生以上(中学生までは保護者と一緒に参加)の方
参 加 費: 500円(保険・夕食代として)
持 ち 物: 食器、寝具(防寒用の毛布、寝袋等)、体育館で履く内履きの靴など
申 込 締 切: 1月6日(火)
主 催: 横須賀災害ボランティアネットワーク、NPO法人横須賀国際交流協会、横須賀市、横須賀市社会福祉協議会

第10回ボランティアフェスタ

歌って、踊って、奏でて♪・・・
そして、聞いて、観て、触って!!

盛り沢山の企画を用意し、よこすかボランティアセンターに登録する団体の活動紹介をします。多くの皆様のご来場をお待ちしております。

日 時: 3月7日(土)10時30分～15時30分
場 所: 総合福祉会館 4階 点字図書館
5階 ホールほか全室
内 容: ボランティア団体の活動紹介
歌・踊り・演奏・マジック・けん玉等のパフォーマンス
ス・パネル展示・地域作業所製作品の販売、軽食コー
ナー・サウンドテーブルテニス体験 (入場自由)
主 催: 横須賀市ボランティア連絡協議会
後 援: 横須賀市社会福祉協議会



ボランティア(会場設営、案内など)募集中!
問合せ・申込みは、よこすかボランティアセンターへ

よこすか精神保健福祉フォーラム みんなで考えよう

一精神の障害があっても地域で安心して暮らせるために

日 時: 2月8日(日)13時～16時
場 所: 総合福祉会館 5階視聴覚研修室
内 容: 報告「保健所への相談事例」市保健所健康づくり課
講演「精神障害者の生活支援とネットワークづくり」
県立保健福祉大学 准教授 行實 志都子 氏
交流・情報交換
定 員: 60人(定員になり次第締切り、1月末までに事前予約してください)
そ の 他: どなたでも参加できます。参加費無料
主 催: NPO法人横須賀つばさの会
申込み・問合せ: つばさの家作業所 TEL (852)3756
<同時開催> 市職員の出前トーク「障害年金について」
13時～15時30分 総合福祉会館 5階第2研修室(予約不要)

布おもちゃ親子サロン “ポケット”ひろば



4月から開催時間が10時～12時になります

(1月はお休み、2月13日・3月13日は、従来どおり
10時～12時30分に総合福祉会館5階 教養活動室で開催します)

“ポケット”ひろばは、布おもちゃで遊びながら、子育て中の親子の交流を深めるサロンです。お父さんの参加もお待ちしています!

*4月以降の開催日は、4月号でお知らせします。

ゴミのことならお気軽にご相談ください!

大型ゴミ 引越ゴミ 遺品整理 事業系ゴミ 家電リサイクル 等

お電話にてご相談承ります。 TEL 046-856-4620 FAX 046-857-2230

か やま ぼく じょう
有 限 会 社 嘉 山 牧 場

横須賀市武 4-1-7-201



お気軽にご相談下さい

秘密厳守

※場所はいずれも総合福祉会館2階です。相談日が祝日に当たる時はお休みとさせていただきます。／12時～13時はお昼休みとさせていただきます。

生活福祉資金貸付相談

所得の低い世帯、お年寄りや障害のある方の世帯を対象に、安定した生活を送ることができるよう資金貸付の相談を行っています。

【予約制】窓口の相談は混雑していますので、お越しいただく前に必ず電話でご連絡ください。

●毎週月～金曜日
9時～11時30分・13時～16時
予約はTEL(822)13301
地域福祉課 生活福祉資金担当

介護相談

①お困りの内容によって資金の種類が異なります(一般生活費の貸付けはありません)。
②資金の種類によって民生委員による相談援助が行われます。
③原則として連帯保証人が必要です(市内在住の方)。

●毎週月～金曜日
福祉機器や介護について介護福祉士がお答えします。
10時～16時 福祉機器展示場
電話相談TEL(824)9436

住宅改造相談

ちよとした工夫や改造をすることで、暮らしやすい家になることができます。

障害者や高齢者のより住みやすい環境をつくるために、神奈川県建築士事務所協会の建築士が相談に応じます。

【予約制】

●毎月第4水曜日
10時～15時 市社協相談室
予約はTEL(823)0386
神奈川県建築士事務所協会
横須賀支部へ
受付時間10時30分～17時

ありがとう

社会福祉のために、温かい寄付がありました。

(敬称略)

平成26年9月1日～11月30日

玉井歌謡塾 玉井明、栗田敏彦、柳根岸工務店、船橋珠枝、横須賀落語愛好会、大津二丁目老人生きがいの家、よこすか葉山農協「虹の会」

大楠地区ボランティアセンター、横須賀市シルバー人材センター、手話サークル逸見、伊藤亜子、川島雪子、本町デイ

サービスセンター、久里浜地区ボランティアセンター、鈴木一良、衣笠地区ボランティアセンター、手話ダンスサークル『ゆらぎ』、三春町地区ボランティアセンター、スポーツコミュニティよこすか、武山地区ボランティアセンター、山崎峰崇、徳嶺啓子、亀井裕子、武谷広子、横須賀老人ホーム

寄付金11件 100,092円
物品 23件

あとがき

毎年十月から始まる赤い羽根共同募金の世帯あたりの平均寄付金は、神奈川県下では以前から横須賀市がトップです。望ましいことですが、その原因が分からず、疑問が拭えませんが、なにも我々が努力している結果だと思えばいいのですが、どうもそれだけでは納得がいかず、福祉に精通している大先輩に聞いたことがあります。

『横須賀は昔から軍港の町、地方の若い兵隊さんたちが、たくさん横須賀にいました。まだ家族が恋しい若者たちは、休日になると、私たちに故郷の話を

して寂しさを癒しながら、家族のように親しくしていました。私たちは、それを聞きながら相談にのってあげたり、優しい言葉をかけたり、お国のために働いているのだからと励まし、長い間人情のあるお付き合いを続けていました。

終戦になり、荒廃した生活の中では、そんな悠長なことは言っていられなくなりましたが、落ち着きを取り戻す頃には、人情のある横須賀に戻ってきました。』

とすると、私たちは、人情いっぱい横須賀に住んでいることになりました。共同募金の結果からみる横須賀、皆様はどう感じるでしょうか。

(一)

公益社団法人 横須賀市シルバー人材センター 「文化展」

横須賀市シルバー人材センターでは、文化的行事として会員による作品を一堂に展示して、地域社会へ潤いを添える機会となりますよう、初めての「文化展」を開催することになりました。

寒い季節ですが、健康維持のため足を運んでいただき、いろいろな作品鑑賞をお楽しみください。

*展示会当日は、知的障害者団体の皆さんも、作品と共に参加します。

日 時：2月27日(金)10時～17時
2月28日(土)10時～16時
場 所：横須賀市文化会館 1階 展示場(正面入口右側)
内 容：写真、絵画、書道、彫刻、陶芸、手工芸品 など
主 催：公益社団法人横須賀市シルバー人材センター
文化展実行委員会(人材センター親睦会)
協 力：横須賀・三浦作業所連絡会

シルバー人材センター

高齢者が、働くことを通じて健康と生きがいを得るとともに、地域社会の活性化に貢献する全国的な組織です。

地方自治体単位で設置され、それぞれ独立して運営しています。

市内在住で、健康な60歳以上の方なら、どなたでも入会できます。

横須賀の会員数は1,267人(平成26年11月末現在)です。

入会手続き、問合せ

公益社団法人横須賀市シルバー人材センター
〒238-0041 横須賀市本町2丁目1番地 総合福祉会館 8F
TEL(822)1337 FAX(822)1340

